

トップメッセージ

新中期経営ビジョン「際立とう 2020」のもと、
存在感と魅力ある企業として
持続的な成長を果たしていきます。

富士重工業株式会社 代表取締役社長 CSR委員長

吉永 泰之



“際立つ”存在を目指して

私たち富士重工業グループは、“お客さま第一”を基軸に「存在感と魅力ある企業」を目指すという経営理念のもと、2012年3月期から2016年3月期までの5カ年中期経営計画「Motion-V」を策定し、成長実現に取り組んでまいりました。その結果、おかげさまで2014年3月期決算において、計画に掲げた主要な数値目標を2年前倒しで達成でき、一定の区切りをつけることができました。

一方、想定を超える販売台数の拡大に伴う供給不足やアフターサービス対応、世界各地で進みつつある環境規制強化の対応など、新たな課題が顕在化しております。こうしたさまざまな課題に正面から向き合い、次の時代を切り開くべく、新中期経営ビジョン「際立とう2020」（英文表記：Prominence 2020）を今年5月に発表、小規模で個性的なスバルならではの特徴を活かし、付加価値経営の更なる推進を目指す「スバルブランドを磨く」、経営環境変化への耐性を高める「強い事業構造を創る」という2つの大きな柱を掲げ、具体的な取り組みを進めております。

とくに「スバルブランドを磨く」では総合性能、安全、デザイン、環境、品質・サービス、コミュニケーションの6つの取り組みに集中し、その中でも「安全の追求」や「環境への対応」は当社のCSR経営における最重要テーマとして位置づけております。

総合安全NO.1ブランドであり続ける

先進運転支援システム「アイサイト」は2005年5月にレガシィへ搭載して以降、お客さまからも大変好評をいただき、昨年度3月末時点で「アイサイトVer.2」搭載車の国内累計販売台数が20万台を上回りました。また海外においても、北米地区のIIHS（ハイウェイ安全保安協会）で「アイサイト」搭載車が前突回避性能評価において最高評価の「Superior」を獲得いたしました。

今後も運転支援システム「アイサイト」の進化による将来の自動運転も視野に入れながら、全方位からすべての乗員、歩行者の安全性を追求し、「総合安全No.1ブランド」を目指してまいります。

2020年までに環境性能をトップレベルに高める

環境問題に対する解として、昨年度はスバルらしいハイブリッド技術を集結した「SUBARU XV HYBRID」を、また今年6月にはスバルのターボ技術を活用した小排気量エンジンを搭載する新型車「レヴォーグ」を投入しました。おかげさまで多くのお客さまからのご支持をいただき、販売を伸ばしています。今後もそれらの技術の継続的な開発により、軽快な走りを実現する動力性能と優れた燃費性能の両立した「スバルらしい」環境対応車を追求してまいります。さらに米国をはじめ主要市場における環境規制に対応していくために、内燃機関、電動化の双方でトップレベルの環境性能を目指します。

強い事業構造を創る

こうした各種の取り組みを支える「人材育成、組織・風土づくり」も、重要なテーマの1つと認識しております。そこで当社は新たに社内プロジェクトを発足させ、ダイバーシティの推進を含めたヒューマンリソースのさらなる強化と、組織・風土の改革に取り組んでおります。また、国内外の事業拠点におけるミドルマネジメント層の強化、将来の経営を担う次世代リーダーの養成などに注力し、中長期的な成長を牽引する強力な布陣をつくりあげたいと考えております。そして、チャレンジ・個性・創造力を大切にす風土の醸成に力を注いでまいります。

ステークホルダーの方々から共感される会社でありたい

これからの富士重工業グループが、中長期的な視野で魅力ある企業として存在感を発揮し、また持続的な成長を果たすために守るべき大切なことは、これまで受け継いできた“お客さま第一”の姿勢です。販売台数が急増している米国でのアフターサービス強化や、新車開発プロジェクトにおけるスバル車ユーザーからのきめ細かなヒアリングの実施など、あらゆる事業活動の根幹として、この姿勢を変えることなく貫いてまいります。

これからも世界で事業を展開する「企業市民」としての責任を果たし、世界の皆さまから信頼される企業となることを目指してまいります。今後とも皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年7月
代表取締役社長 CSR委員長
吉永泰之

